

令和 2 年 7 月 12 日現在

機関番号：23901

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K02689

研究課題名(和文) フランス語圏アフリカ手話の記載的研究に基づく言語・知識資源の理論構築

研究課題名(英文) The theory of language and knowledge as resources through the descriptive research on Langue des Signes d'Afrique Francophone

研究代表者

亀井 伸孝 (KAMEI, Nobutaka)

愛知県立大学・外国語学部・教授

研究者番号：50388724

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：コートジボワールで、ろう者コミュニティとともに、フランス語圏アフリカ手話(コートジボワール方言)の動画撮影・編集作業・英仏二言語への対訳作成を進め、主要語彙などを中心とした3,537件の動画のデータセットを完成させた。また、1970年代のフランス語圏アフリカにおけるろう教育の成立史を解明し、この手話言語の成立過程の一端を明らかにした。フランスにおける調査の中で、フランス語圏アフリカ手話をフランス手話やカナダのケベック手話などと比較する作業を通じ、世界のフランス語圏における手話言語分布の成立史の中に位置付けるという視点を得た。

研究成果の学術的意義や社会的意義

フランス語圏西アフリカ・中部アフリカに広域的に分布しているが、未解明の諸点が多いフランス語圏アフリカ手話(LSAF)について、その語彙の動画データセットを完成させたことは、この言語の特徴を記載するという意味で重要である。

また、その言語とコミュニティの成立過程をインタビューなどで明らかにしたことは、アフリカにおける言語的・文化的多様性への理解を深め、とりわけ手話言語に対する正確な理解を促す契機となる。フランス語圏アフリカ手話を世界の諸手話言語と比較する作業を通じて、アフリカの手話言語が世界の言語動態史の一角を占めるという理解を促し、人間の言語文化世界の全体像に関するよりよい認識へとつながる。

研究成果の概要(英文)：Several series of fieldwork were conducted in Cote d'Ivoire with the collaboration of the local Deaf community. (1) Recording the basic vocabulary of Langue des Signes d'Afrique Francophone (LSAF) - Dialecte de Cote d'Ivoire. (2) Editing and checking the videos. (3) Translating the signs into English and French. Finally, the construction of the video data set including 3,537 signs with English/French translation was completed. For the historical research on the Deaf communities, interviews were also conducted with Deaf collaborators with using their sign language. The process of the beginning of deaf education in Cote d'Ivoire and West Africa was clarified in this research. During the researches in France, the importance of the comparison among sign languages in the French-speaking areas (Langue des Signes Francaise (LSF) and Langue des Signes Quebecoise (LSQ)) was recognized to gain a further understanding of the characteristics of LSAF.

研究分野：文化人類学、アフリカ地域研究

キーワード：アフリカ 手話言語 ろう者 知識資源 フランス語圏アフリカ手話 マイノリティ

## 1. 研究開始当初の背景

フランス語圏アフリカ手話 (Langue des Signes d'Afrique Francophone (LSAF)) は、フランス語圏アフリカにおいて、アメリカ手話および音声 / 書記フランス語の接触の過程において成立した、接触手話言語の総称である。この言語は、同地域における 1970 年代以降のアメリカのキリスト教ミッションによるろう教育事業の浸透に伴って導入されたアメリカ手話の影響の下で成立した。今日、西アフリカ、中部アフリカ諸国に広域的に分布する地域共通の手話言語となっており、ろう者コミュニティにおける日常の言語として幅広く用いられている。

この言語とその関連の現象については、「アフリカにはアメリカ手話が広く分布している」という表層的な理解で済まされていることが多く、その言語の特徴、言語接触と成立の過程、それに関連するろう者コミュニティの文化と歴史など、解明されていない諸側面が多い。

## 2. 研究の目的

本研究では、フランス語圏アフリカ手話の言語としての特徴およびその話者集団であるろう者コミュニティの文化・社会の特性を明らかにするため、現地調査に基づいた記載的研究を行うことをねらいとする。あわせて、アフリカにおける言語的マイノリティ / 聴覚障害をもつ人びとのコミュニティという立場性に付随する、政治的 / 社会的諸問題の理論的検討を進め、人種主義、優生思想、植民地主義、エスノセントリズムなどを中心としたマイノリティ抑圧の思想・言説について分析するとともに、包摂と排除をめぐる諸理論の検討を進める。

## 3. 研究の方法

調査地は、コートジボワール共和国を選定した。これまでの調査の経験と人脈をもつとともに、フランス語圏西アフリカで初めてろう教育が創始された国であると見られるため、そこでの調査が広域的な言語とコミュニティの実態解明につながると期待される。同国で、フランス語圏アフリカ手話の動画撮影、編集、英仏二言語への対訳作成、ろう者コミュニティにおける参与観察と聞き取り調査、写真と文献の収集などを行った。現地への還元を念頭に、ろう者コミュニティにおける調査方法や調査倫理をめぐる研修会、研究成果の報告会、講演会なども実施した。

また、フランスにおいて研究機関に所属し、文献収集、発表・講演などの学術活動に従事した。

コートジボワールとフランスの他、ガーナ、クロアチア、ベルギー、スイス、イギリス、カナダ、アメリカ、台湾、日本で開催された学会や研究行事で、成果の報告を行い、調査で得られた知見の共有を行うとともに、それらにまつわる討論を通じて、同分野における国際的な研究の動向を把握した。

## 4. 研究成果

本計画におけるおもな成果は、以下の通りである。

コートジボワールで、ろう者コミュニティとともに、フランス語圏アフリカ手話 (コートジボワール方言) の動画撮影・編集作業・英仏二言語への対訳作成を進め、主要語彙などを中心とした 3,537 件の動画のデータセットを完成させた。

また、1970 年代のフランス語圏アフリカにおけるろう教育の創始をめぐる文献や写真を発見し、さらに、当時を知る高齢ろう者たちの人脈を得て、手話言語による聞き取り調査をすることにより、この手話言語の成立過程の一端を明らかにした。

フランス滞在と欧米を中心とした研究成果公開の機会を通じ、ふたつの成果を得た。まず、フランス語圏アフリカ手話をフランス手話やカナダのケベック手話などと比較する作業を通じ、世界のフランス語圏における手話言語分布の成立史の中に位置付けるといった視点を得た。

さらに、世界的に見て、フランス語圏アフリカの手話言語とろう者コミュニティの実態に関する知識、理解、関心は依然として欠如しており、このような注目の欠如がもたらしうるアフリカの言語的マイノリティへの新たな抑圧状況に関する視点を得た。

包摂と排除をめぐる諸理論の検討をふまえ、本研究の対象言語とコミュニティに関する分析を深めたほか、各種の刊行と発表を通じて成果を公開した。あわせて、同時代の諸問題に関わる知見を報道機関に提供するなどの取り組みを通じ、一般社会への成果の還元を行った。

期間を通じて、以下のような成果が上がった。

- ・ [ ] 内は、刊行・発表における使用言語を表す。
- ・ [日] = 日本語、[英] = 英語、[仏] = フランス語、[LSAF] = フランス語圏アフリカ手話
- ・ 単著の刊行・発表については、氏名 (亀井伸孝) を省いている。

論文 (査読あり) (3 件: 日本語 2 件, 英語 1 件)

[日] 2018. 「「人種」と「人種主義」をめぐる博物館展示の動向」『国立民族学博物館研究報告』42 巻 4 号: 449-474.

- [英] 2017. Anthropological research on sign languages in French-speaking West and Central Africa. *Carnets de chercheurs*. FFJ-EHESS.
- [英] Sanogo, Y. A. & Nobutaka Kamei. 2017. Promotion of sign language research by the African Deaf community. Kaji, Shigeki ed. *Proceedings of the 8th World Congress of African Linguistics*. Fuchu: ILCAA-TUFS. 411-424.

書籍 (2件: 日本語 2件)

- [日] 2018. 「文化特異性障害」国際開発学会編『国際開発学事典』東京: 丸善出版. 32-33.
- [日] バイオメカニズム学会編. 2017. 『手の百科事典』東京: 朝倉書店. [編集委員]

報告書・紀要論文 (査読なし) (5件: 日本語 4件, フランス語 1件)

- [仏] Sanogo, Y. A. & Nobutaka Kamei. 2019. La promotion de la recherche sur la Langue des Signes par les communautés des Sourds africains. 『共生の文化研究』13: 5-16.
- [日] 2017. 「西アフリカ言語学会主催・第30回西アフリカ言語会議参加報告」『アフリカ研究』92: 135-137.
- [日] 2017. 「多様性を包摂する社会を目指して」竹沢泰子編『人種化のプロセスとメカニズムに関する複合的研究』京都: 京都大学人文科学研究所「人種化のプロセスとメカニズムに関する複合的研究」プロジェクト. 93-98.
- [日] 2017. 「新しい優生思想としての"コミュ障"」『こころの科学』191: 57-63.
- [日] 2016. 「アフリカ社会の多様性に寄り添う開発を目指して」『アジア研ワールド・トレンド』253: 16-19.

エッセイ・ニュースレターなど (3件: 日本語 3件)

- [日] 2019. 「トークイベント「文化から捉える手話」」『共生の文化研究』13: 146.
- [日] 2019. 「長期学外研究「フランス語圏西アフリカにおける手話言語とろう者コミュニティの記載的研究」」『愛知県立大学学報』3: 6.
- [日] 2017. 「手話の世界を訪ねよう」『共生の文化研究』11: 109-110.

学会等招待講演 / 全体講演 (4件: 日本語 2件, 英語 2件)

- [英] 2019. Anthropological commitments to the society and collaborations with minorities. 臺灣人類學與民族學學會 2019年會 (2019年9月28日, 台湾, 中央研究院).
- [日] 2019. 第14回人類学関連学会協議会合同シンポジウム (2019年6月1日, 東北大学).
- [英] 2017. Plenary 1: The role of sign language and research for the integration and development of West Africa. The 30th West African Languages Congress (August 1, 2017, University of Education, Ghana).
- [日] 2016. 「多様性を包摂する社会を目指して」(2016年11月19日, 日本学術会議).

学会発表 (7件: 日本語 2件, 英語 4件, 英語・フランス語併用 1件)

- [英・仏] 2019. African sign languages in world history. The 31st West African Languages Congress (August 12, 2019, Félix Houphouët-Boigny University, Côte d'Ivoire).
- [日] 2019. 「イバダンからアビジャンへ」日本アフリカ学会第56回学術大会 (2019年5月19日, 京都精華大学).
- [英] 2017. Institutions as the incubators of linguistic minority. The 60th Annual Meeting of the African Studies Association (November 18, 2017, Chicago Marriott Downtown Magnificent Mile, USA).
- [英] 2017. Mobility of urban Deaf persons in Africa. The 7th European Conference on African Studies (June 30, 2017, University of Basel, Switzerland).
- [英] 2017. A new emerging identity of Langue des Signes d'Afrique Francophone. The 2017 Inter-Congress, International Union of Anthropological and Ethnological Sciences (May 6, 2017, University of Ottawa, Canada).
- [日] 2016. 「セネガルにおける障害者の職業訓練と生業」日本アフリカ学会第53回学術大会 (2016年6月4日, 日本大学).
- [英] 2016. "Segregation in the name of cultural differences"? The Inter-Congress 2016 of the International Union of Anthropological and Ethnological Sciences (May 7, 2016, Hotel Dubrovnik Palace, Croatia).

研究会発表・講演など (29件: 日本語 11件, 英語 2件, フランス語 9件, フランス語圏アフリカ手話 4件, 日本語・日本手話併用 1件, フランス語圏アフリカ手話・フランス語併用 2件)

- [日] 2019. 「「ダイバーシティ」の何が問題か」応答の人類学研究会 (2019年11月10日, 日本福祉大学).
- [仏] 2019. Situation de la langue des signes dans le monde et particulièrement en Afrique de l'Ouest et du Centre (le 17 août 2019, ECIS, Côte d'Ivoire).

- [日] 2019. 「「人種」と「人種主義」をめぐる博物館展示の動向」(2019年8月8日, 総合地球環境学研究所).
- [日, 日本手話] 2018. 「フランスおよびフランス語圏諸地域の手話の文化」(2018年12月8日, 愛知県立大学).
- [日] 2018. 「フランス語圏西アフリカにおける手話言語・ろう者コミュニティの研究」(2018年10月31日, 愛知県立大学).
- [日] 2018. 「フランス語圏西アフリカにおける手話言語とろう者コミュニティの記載的研究」(2018年8月6日, 愛知県立大学).
- [日] 2018. 「「人種」と「人種主義」をめぐる博物館展示の動向」(2018年7月30日-8月6日, 愛知県立大学).
- [日] 2018. 「「人種」と「人種主義」をめぐる博物館展示の動向」(2018年7月11日, 愛知県立大学).
- [日] 2018. 「エデュケーションにおける応答」(2018年3月28日, 愛知県立大学).
- [仏] 2018. Discours racistes et le rôle de l'anthropologie (le 13 mars 2018, EHESS, France).
- [仏] 2018. La diversité des langues des signes dans la francophonie. Université Paris VIII (le 5 mars 2018, CNRS Pouchet, France).
- [英] 2018. The creation of a contact sign language in West and Central French-speaking Africa (February 19, 2018, SOAS, University of London, UK).
- [仏] 2018. La langue des signes de contact en Afrique francophone (le 14 février 2018, EHESS, France).
- [仏] 2018. La mobilité des sourds urbains en Afrique (le 10 janvier 2018, Université de Strasbourg, France).
- [仏] 2017. Les communautés sourdes et la langue des signes en Afrique francophone (le 19 décembre 2017, Université de Liège, Belgique).
- [仏] 2017. La diversité des langues des signes dans la francophonie (le 23 novembre 2017, INS HEA, France).
- [仏] 2017. Le rôle des langues des signes et la recherche pour l'intégration et le développement en Afrique de l'Ouest. Université Félix Houphouët-Boigny (le 29 septembre 2017, INFS, Côte d'Ivoire).
- [LSAF, 仏] 2017. Deux projets sur la situation de la Langue des Signes d'Afrique Francophone en Côte d'Ivoire (le 28 septembre 2017, ECIS, Côte d'Ivoire).
- [LSAF, 仏] Akiyama, Nami & Nobutaka Kamei. 2017. La diversité des langues des signes dans le monde et en Afrique (le 25 août 2017, ECIS, Côte d'Ivoire).
- [英] 2017. History of Deaf communities and sign languages in French-speaking West Africa (August 17, 2017, CSRS, Côte d'Ivoire).
- [日] 2016. 「新科目「公共」に対する文化人類学からの提言」日本学会議 (2016年11月13日, 東京外国語大学).
- [日] 2016. 「地球環境を用いるのはだれか」(2016年10月7日, 総合地球環境学研究所).
- [LSAF] 2016. L'histoire et le projet actuel de la recherche (le 10 septembre 2016, ECIS, Côte d'Ivoire).
- [仏] 2016. Les langues des signes du monde et la Langue des Signes d'Afrique Francophone (le 9 septembre 2016, ECIS, Côte d'Ivoire).
- [LSAF] 2016. L'histoire et le projet actuel de la recherche (le 3 septembre 2016, ECIS, Côte d'Ivoire).
- [LSAF] Kamei Nobutaka. 2016. La recherche de la langue et la politique linguistique (le 2 septembre 2016, ECIS, Côte d'Ivoire).
- [LSAF] 2016. La série de cours pour la formation du montage pour le dictionnaire DVD de la Langue des Signes d'Afrique Francophone - Dialecte de Côte d'Ivoire (du 22 août au 7 septembre 2016, ECIS, Côte d'Ivoire).
- [日] 2016. 「手話の世界を訪ねよう」(2016年6月7日, 愛知県立大学).
- [日] 2016. 「西アフリカにおける「障害と開発」」日本貿易振興機構アジア経済研究所 (2016年5月20日, ジェトロ本部).

報道・取材など (8件: 日本語6件, 英語1件, 日本手話1件)

- [英] 『毎日新聞』の英語版 *The Mainichi* にコメント掲載【ウェブ版】(April 16, 2019).
- [日] 『毎日新聞』にコメント掲載【紙面】(2019年4月16日).
- [日] 『毎日新聞』にコメント掲載【ウェブ版】(2019年4月14日).
- [日] BuzzFeed News にインタビュー掲載 (2019年4月5日).
- [日] 朝日新聞にロングインタビュー掲載 (2017年11月25日).
- [日] withnews ロングインタビュー掲載 (2017年11月7日).
- [日] 朝日新聞へのコメント掲載 (2017年11月3日).
- [日本手話] NHK Eテレ「手話ニュース845」出演 (2016年5月24日, 20:45-21:00).

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計8件（うち査読付論文 3件／うち国際共著 2件／うちオープンアクセス 6件）

1. 著者名 Sanogo Yede Adama & Nobutaka Kamei	4. 巻 13
2. 論文標題 La promotion de la recherche sur la Langue des Signes par les communautés des Sourds africains : cas de l'Afrique de l'Ouest et de Centre francophone	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 共生の文化研究	6. 最初と最後の頁 5-16
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1. 著者名 亀井伸孝	4. 巻 -
2. 論文標題 多様性を包摂する社会を目指して：文化人類学の三つのメッセージ	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 人種化のプロセスとメカニズムに関する複合的研究	6. 最初と最後の頁 93-98
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 亀井伸孝	4. 巻 92
2. 論文標題 西アフリカ言語学会主催・第30回西アフリカ言語会議（WALC2017）参加報告	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 アフリカ研究	6. 最初と最後の頁 135-137
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Kamei Nobutaka	4. 巻 -
2. 論文標題 Anthropological research on sign languages in French-speaking West and Central Africa	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Carnets de chercheurs (la Fondation France-Japon (FFJ) de l'Ecole des Hautes Etudes en Sciences Sociales (EHESS))	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Sanogo, Yede Adama & Nobutaka Kamei	4. 巻 1
2. 論文標題 Promotion of sign language research by the African Deaf community: Cases in French-speaking West and Central Africa	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Proceedings of the 8th World Congress of African Linguistics	6. 最初と最後の頁 411-424
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 亀井伸孝	4. 巻 253
2. 論文標題 アフリカ社会の多様性に寄り添う開発を目指して: 西アフリカの障害をもつ人びとの風景	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 アジ研ワールド・トレンド	6. 最初と最後の頁 16-19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 亀井伸孝	4. 巻 191
2. 論文標題 新しい優生思想としての"コミュ障": 異文化間の快適な対話を目指して	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 こころの科学	6. 最初と最後の頁 57-63
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 亀井伸孝	4. 巻 42(4)
2. 論文標題 「人種」と「人種主義」をめぐる博物館展示の動向: フランスの人類博物館とアメリカ人類学会の展示会の事例	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 国立民族学博物館研究報告	6. 最初と最後の頁 449-474
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計11件（うち招待講演 4件 / うち国際学会 7件）

1. 発表者名 Kamei, Nobutaka
2. 発表標題 Anthropological commitments to the society and collaborations with minorities: In the era of "post-Writing Culture shock
3. 学会等名 台湾人類学・民族学会2019年大会（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 亀井伸孝
2. 発表標題 社会と対話・協働する人類学: その可能性と役割
3. 学会等名 第14回人類学関連学会協議会 (CARA) 合同シンポジウム (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kamei, Nobutaka
2. 発表標題 African sign languages in world history: Through the comparison of LSF, ASL, LSQ and LSAF
3. 学会等名 第31回西アフリカ言語会議 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 亀井伸孝
2. 発表標題 イバダンからアビジャンへ: 1970年代の西アフリカにおける手話言語の伝播
3. 学会等名 日本アフリカ学会第56回学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kamei Nobutaka
2. 発表標題 A new emerging identity of Langue des Signes d'Afrique Francophone (LSAF): A legacy and new movements of the Deaf community in West and Central Africa
3. 学会等名 The 2017 Inter-Congress, International Union of Anthropological and Ethnological Sciences (IUAES) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Kamei Nobutaka
2. 発表標題 Mobility of urban Deaf persons in Africa: The creation of sign languages and identities
3. 学会等名 The 7th European Conference on African Studies (ECAS7) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Kamei Nobutaka
2. 発表標題 Plenary 1: The role of sign language and research for the integration and development of West Africa: Cases in English-speaking and French-speaking Africa
3. 学会等名 The 30th West African Languages Congress (WALC2017) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Kamei Nobutaka
2. 発表標題 Institutions as the incubators of linguistic minority: The history of Deaf education in Africa and the role of knowledge resources
3. 学会等名 The 60th Annual Meeting of the African Studies Association (ASA) (国際学会)
4. 発表年 2017年



1. 発表者名 亀井伸孝
2. 発表標題 セネガルにおける障害者の職業訓練と生業：技能伝承におけるふたつのモデル
3. 学会等名 日本アフリカ学会第53回学術大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Kamei Nobutaka
2. 発表標題 "Segregation in the name of cultural differences"?: Pro-apartheid discourses in contemporary Japanese contexts and the role of cultural anthropology/anthropologists
3. 学会等名 The 2016 Inter-Congress, International Union of Anthropological and Ethnological Sciences (IUAES) (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 亀井伸孝
2. 発表標題 多様性を包摂する社会を目指して：文化人類学の三つのメッセージ
3. 学会等名 日本学術会議人類学分会公開シンポジウム「高等学校・新科目「公共」にむけて：文化人類学からの提案」（招待講演）
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 国際開発学会編	4. 発行年 2018年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 640
3. 書名 国際開発学事典	

1. 著者名 バイオメカニズム学会編	4. 発行年 2017年
2. 出版社 朝倉書店	5. 総ページ数 608
3. 書名 手の百科事典	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>Center for Asian and African Sign Languages (AASL)  <a href="http://aasl.aacore.jp/wiki/">http://aasl.aacore.jp/wiki/</a></p> <p>亀井伸孝の研究室  <a href="http://kamei.aacore.jp/">http://kamei.aacore.jp/</a></p>
---

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----